

第三セクター等経営健全化方針

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和6年3月25日
作成担当部署 枕崎市水産商工課

2 第三セクター等の概要

法人名 株式会社枕崎お魚センター
代表者名 代表取締役 前田 祝成
所在地 鹿児島県枕崎市松之尾町33-1
設立年月日 平成4年4月4日
資本金 50,000千円 【当該地方公共団体の出資額（出資割合）26,000千円（52%）】
業務内容 (1) 水産物・水産加工品等の販売
(2) 食堂及び売店の経営
(3) 水産物消費拡大及び魚食普及啓蒙
(4) お魚センターの運営及び維持管理に関する事業
(5) その他前各号に附帯する一切の業務

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

株式会社枕崎お魚センター（以下「お魚センター」という。）は、水産物消費拡大のためのアンテナショップとして、消費者ニーズの把握と付加価値の高い水産物や加工品の開発、情報交換の場となる中核モデル施設を整備し、水産物の消費拡大、魚食普及による水産業及び本市経済の活性化を図ることを目的として平成4年4月に設立されました。お魚センターの経営の全般的な状況としては、運転資金が少ないことや建設資金の返済が大きいことなどから、開館当初から厳しい経営状況が続いており、また、令和2年度以降については、新型コロナウイルス感染症の影響などにより入館者数及び売上高の大幅な減少が続いています。本市は、設立から主導的な立場で会社経営にかかわってきたこと等を踏まえ、お魚センターの経営健全化に必要な支援策として、金融機関からの融資を受けるための損失補償や、固定資産税及び法人市民税の減免、経営安定化資金の貸付、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用したりリニューアルに係る費用の補助等を行ってきました。お魚センターが取り組む事業は、産業の振興や地域経済の活性化、観光振興、雇用の確保に大きな役割を果たしており、公共性、公益性が高い事業と位置付けられていることから、継続して事業展開が図られるよう支援しているところです。なお、市が損失補償をしていることで財政的リスクはありますが、標準財政規模に対する負担可能性がある財政的リスクは令和4年度決算時で1.5%であり、国の第三セクター等の経営健全化等に関する指針で示されている多大な財政的リスクの水準（11.25%～15%）を下回っている状況です。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

本市では、第6次枕崎市総合振興計画における目標の一つである「人と物が交流し、活力みなぎるまちづくり」の施策として掲げている「地域の魅力を増幅する観光の振興と地域間交流」に取り組むため、お魚センターでの体験型観光の推進策を打ち出しています。また、第2期枕崎市地方創生総合戦略における政策分野のうち「ひとと産業（仕事）をつなぐ」、「市外のひと・まちをつなぐ」の2分野において、地場産業の更なる飛躍に向けた支援及び体験型・滞在型観光の充実の目標達成に向けて、観光拠点

施設であるお魚センターによる観光客誘客等の施策を展開することとしています。お魚センターは、本市を含む南薩地域の観光での中核施設ではありますが、テナント入店事業者の撤退や新型コロナウイルス感染症等の影響による入館者数の減少等により、損益収支について平成29年度以降の決算及び令和5年度の決算見込みが赤字となっていることから、経営改善を図るため、外部の専門家として公認会計士を交え、お魚センター経営改善検討会（以下「検討会」という。）において、経営改善等の対策を検討しました。検討会では、令和4年度にお魚センターが策定した5カ年の経営改善計画（令和5年度～9年度）に記載された内容等を十分に踏まえて、「観光拠点」、「海業推進」、「市民活躍」の3つの柱をコンセプトにしたお魚センターのリニューアルの方向性等についてお魚センターと協議を行いました。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

検討会及びお魚センターは経営健全化のため、太陽と鯉のまち「枕崎」ウォーターフロント拠点整備事業でのリニューアルによる各部門の徹底した業務効率化を図るとともに、リニューアルの目玉となるフードホール型レストランにおいて、人気メニューとして定着した「枕崎鯉船人めし」を中心に、漁業者や市場関係者との連携により枕崎漁港で水揚げされる鮮魚を活用したメニューの充実等に取り組むことで、本市の豊富な食を提供するとともに、徹底した原価管理により、お魚センターの売上高の約40%を占めるレストラン部門の収益増を図っていくこととしました。

また、チャレンジショップ促進支援事業を活用して、令和6年4月から新たにフードホール内のテナント1区画分への入店が予定されていることから、テナント料増収が見込めることとなりました。

国内外からの観光客誘客施策については、これまでカツオのわら焼きタタキ体験充実のための支援やみなとの小さな水族館プロジェクトの推進などを行ってきましたが、今後、本市産品を活用したレストランメニューの新展開やSNSの活用による効果的な情報発信の強化等を行うことで、更なる誘客を図るための事業を委託していくとともに、リニューアルしたお魚センターを中心として交流人口・関係人口創出の底上げや産業振興を推進するため、国や県の補助事業等についても引き続き積極的に活用していきます。

また、お魚センターの安定した収益の確保を図るため、令和6年度からは新たに漁港施設を利用する船舶の入港調整等の業務について、業務を委託することとしています。

ふるさと納税に関しても、お魚センターではこれまで水産加工品やイセエビ、枕崎茶、枕崎牛など多種多様な返礼品を展開し、積極的な取組により一定の売上高を確保しているところです。寄附動向の情報共有やトレンド予測の提供などにより、お魚センターの更なる収益増につながる取組を支援していきます。

なお、本市が損失補償を行っている借入金については、返済計画において令和12年10月に支払が終了することとなっていますが、その借入金を継続して償還していくことで、本市に対する財政的リスクの改善が図られます。

本方針に記載した対応等を確実に実施し、お魚センターの経営健全化に取り組むことで、今後4年間で債務超過額の縮減を図るとともに、令和10年度以降についても本方針の継続した策定を行っていくことで、債務超過の解消に向けて取り組んでいきます。

○ 経営健全化のための今後4年間の部門別損益収支計画

(単位: 千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
管理・営業部門	△16,840	△15,000	△8,771	△10,164	△9,861	△9,542
レストラン部門	2,655	6,000	8,487	8,328	8,177	9,683
販売部門	701	1,500	864	5,248	5,519	6,997
ふるさと納税部門	3,191	1,000	2,799	3,999	5,498	6,998
合計	△10,293	△6,500	3,379	7,411	9,333	14,136
(債務超過)	(△47,401)	(△53,901)	(△50,522)	(△43,111)	(△33,778)	(△19,642)

※ 令和5年度は決算見込み

6 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額 (千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	資産総額	137,832	117,663	159,571
	(うち現預金)	(33,431)	(17,064)	(64,855)
	(うち売上債権)	(4,134)	(5,703)	(7,414)
	(うち棚卸資産)	(3,527)	(3,249)	(4,039)
	負債総額	164,864	154,771	206,972
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	(0)	(0)	(50,000)
	純資産額	△27,032	△37,108	△47,401

損益計算書から	項目	金額 (千円)		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	経常収益	126,705	134,242	152,680
	経常費用	136,852	144,303	162,954
	経常損益	△10,147	△10,061	△10,274
	経常外損益	5	△14	△19
	当期純損益	△10,142	△10,075	△10,293